

芸術

1. 学習の到達目標等

学習の 到達目標	表現・鑑賞等の芸術活動を通して、芸術を味わい表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)芸術活動の楽しさを探究することを通して、芸術への興味・関心を高め、芸術によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって芸術に親しんでいく態度を育てる。 (2)多様な芸術表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 (3)多様な芸術に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。
-------------	--

2. 各教科における学習活動

表現、鑑賞

学習喚起ルーブリック

生徒の望ましい姿 教科活動	優	良	可	未達成
表現	・その分野の表現手段の技量に非常に優れている。 ・鑑賞者が惹きつけられるような独創的な創意工夫を交えて表現している。 ・その分野の表現をすることに鑑賞者が惹きつけられるような興味関心を持ち、極めて意欲的に取り組んでいる。	・その分野の表現手段の技量に優れている。 ・独創的な創意工夫を交えて表現している。 ・その分野の表現をすることに一定以上にの興味関心を持ち、相当意欲的に取り組んでいる。	・その分野の表現手段の技量を学年の発達段階に応じた程度持っている。 ・自分なりの創意工夫を交えて表現している。 ・その分野の表現をすることに興味関心を持ち、おおむね意欲的に取り組んでいる。	十分な時間取り組むことができなかった。
鑑賞	・その鑑賞対象について、単なる知識を越えた深い洞察的理解を示している。 ・芸術的な視点からの極めて敏感な審美眼を持ち、非常な感動をもって鑑賞対象を味わっている。 ・鑑賞対象のよさを積極的に自己に取り込み、得たものを自分の表現に反映させることに極めて意欲的である。	・その鑑賞対象について、洞察的理解を示している。 ・敏感な審美眼を持ち、感動をもって鑑賞対象を味わっている。 ・鑑賞対象のよさを自己に取り込み、得たものを自分の表現に反映させることに相当意欲的である。	・その鑑賞対象について、学年の発達段階に応じた知識的理解を示している。 ・ある程度の審美眼を持ち、おおむね鑑賞対象を味わっている。 ・鑑賞対象のよさを自分の表現に反映させることにおおむね意欲的である。	

3. 各科目

1年	音楽	美術	
2年	音楽	美術	
3年	音楽	美術	
4年	音楽	美術	書道

「1年 音楽」

使用教材 MY SONG 6訂版（教育芸術社）

1 評価の観点

評価の観点		
【知】知識・技能	【思】思考力・判断力・表現力	【態】主体的に学習に取り組む態度
・読譜等の、音楽に取り組むための基本的な知識・技能を身につけている。 ・基本的な演奏方や歌唱法などの技能を身につけている。	・音楽表現（歌唱・器楽・創作）の美しさを感じ取り、美しい音や豊かな表情を工夫して表現している。	・音楽活動に興味・関心を持ち、意欲的に取り組み、幅広く主体的に鑑賞している。

2 年間の学習内容

1年 音楽	①	歌唱
	②	鑑賞
	③	器楽
	④	創作
	⑤	発表

3 学習計画及び評価方法等

中 単 元 名	小単元 （教材名）	評価基準・評価方法
		【知】（知識・技能） 【思】（思考力・判断力・表現力） 【態】（主体的に学習に取り組む態度）
①	体操・呼吸・ 発声の基本 「校歌」	A 表現(1)歌唱の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ(ア) 曲種に応じた発声で歌唱表現をする技能を身につけている。 【思】イ(ア) 発声や言葉の表現に気をつけて歌唱表現を創意工夫している。 【態】ア 音楽的な発声の特徴や発声の多様性に関心を持っている。
	「主人は冷たい土の中に」	A 表現(1)歌唱の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ(ア) 旋律の動きや言葉の抑揚、リズム、語感による特性などを生かして歌唱表現している。 【思】イ(イ) リズム、メロディーの音と音の関連、速度と強弱の働きや効果を知覚近くし、表現を工夫している。 【態】ア 旋律の動きや言葉の抑揚、リズム、語感による特性などの表現の仕方に関心を持っている。
	「夢の世界を」	A 表現(1)歌唱の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ(イ) 語感による特性や各声部の特徴と役割などを生かして歌唱表現する技能を身につけている。 【思】イ(イ) ハーモニーにおける音と音の関連、速度と強弱の働きや効果を知覚し、表現を工夫している。 【態】ア 楽曲の持っている和声の良さを感じ取り、歌唱表現することに意欲的である。
	「夏の思い出」「赤とんぼ」	A 表現(1)歌唱の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ(ア) 日本語の美しさを生かして歌唱表現する技能を身につけている。 【思】イ(ア) 音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想の美しさを感じ取っている。 【態】ア 歌曲の内容や曲想、曲種に応じた発声や美しい言葉の表現、声部の役割と全体の響きに関心をもち曲にふさわしい歌唱や合唱の表現をすることに意欲的である。
	合唱祭課題曲	A 表現(1)歌唱の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ(イ) 他の声部とのかかわりや全体の響きに気をつけて合唱表現をする技能を身につけている。 【思】イ(イ) 他の声部とのかかわりや全体の響きを感じ取り合唱表現を工夫している。 【態】ア 他の声部とのかかわりや全体の響きに関心を持ち合唱表現することに意欲的である。
	合唱祭自由曲	A 表現(1)歌唱の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ(ア) 言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音、鼻濁音などの表現の仕方を生かして歌唱表現する技能を身につけている。 【思】イ(イ) 音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式などの働きを生かした表現を工夫している。 【態】ア 自己のイメージを広げ、曲の持っている良さや特徴を感じ取り、歌唱表現することに意欲的である。

中 単 元 名	小単元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】(知識・技能) 【思】(思考力・判断力・表現力) 【態】(主体的に学習に取り組む態度)
②	「四季」より 第一楽章「春」	B鑑賞(1)鑑賞の活動を通して身に付ける事項 【知】イ(ア) 音楽の様々な構成要素の働きや効果と、楽曲の雰囲気や曲想との関わりを意識して聞き取っている。 【思】共通事項(1)ア 表現要素の働きを知覚し、それによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取っている。 【態】ア(ア) 雰囲気や曲想によって様々な個人のイメージや感情が引き出されることに関心を持っている。
	「魔王」	B鑑賞(1)鑑賞の活動を通して身に付ける事項 【知】イ(イ) 速度や強弱によって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を意識して聞き取ったり聞き分けたりしている。 【思】共通事項(イ) 声楽の歌い方の変化や旋律の働きと効果を知覚し、楽曲の雰囲気や曲想と関わらせて感じ取っている。 【態】ア(イ) 音楽が生まれた環境や背景、作曲者と音楽の関わりをとらえて聞くことに関心・意欲を持っている。
	「六段の調べ」	B鑑賞(1)鑑賞の活動を通して身に付ける事項 【知】イ(ウ) 日本の楽器による日本の音楽を楽しく聴取、鑑賞し、その良さや美しさを味わっている。 【思】ア(ウ) 日本の音楽と西洋音楽の違いを感じ取っている。 【態】ア(ア) 日本の楽器による日本の音楽を楽しく聴取、鑑賞し、その良さや美しさを味わっている。
③	和楽器「箏」 I	A表現(2)器楽の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ(ア) 簡単な日本の旋律を演奏している。 【思】イ(ア) 日本の楽器の操作や演奏を工夫している。 【態】ア 日本の楽器や音楽に関心を持っている。
	和楽器「箏」 II	A表現(2)器楽の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ(イ)日本の楽器を使って、日本の音楽を演奏する基礎的な技能を身につけている。 【思】イ(イ) 日本の音楽と西洋音楽の違いを感じ取っている。 【態】ア 日本の楽器の操作や日本の音楽の演奏に意欲的に取り組んでいる。
④	箏を使った旋律の創作	A表現(3)創作の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ 自分で創作した日本的な旋律を日本の楽器で演奏表現できる。 【思】イ(ア)(イ) 日本的な旋律の特徴を感じ取り、工夫して創作している。 【態】ア 日本的な旋律を創作することに意欲的である。
⑤	夏休みの宿題 の発表と鑑賞	A表現(1)歌唱または(2)器楽の活動を通して身に付ける事項 【知】ウ(ア)(イ) 自分の選んだ曲や表現方法について、間違えることなく発表できる。 【思】イ(ア)(イ) 自分に合う曲を選び、その良さを把握し、音楽の流れに乗って表現している。 【態】ア 自分で曲や演奏手段を決め、練習し、人に向けて発表することに意欲的である。

「1年 美術」

使用教材 美術資料（秀学社）

評価の観点

評価の観点		
【知】知識・技能	【思】思考力・判断力・表現力	【態】主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について、理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し 構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の 幅広い学習活動に取り組もうとしている。

年間の学習内容

1 年 美術	①	鉛筆による基礎デッサン技法
	②	鉛筆による目の細密描写と手のデッサン
	③	石彫・蔵書印の持ち手を彫る
	④	空想画の表現についてと鉛筆デッサン
	⑤	蔵書院の篆刻
	⑥	抽象表現についてと鉛筆デッサン
	⑦	石彫を磨き、仕上げる

学習計画及び評価方法等

中 単 元 名	小单元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】（知識・技能） 【思】（思考力・判断力・表現力） 【態】（主体的に学習に取り組む態度）
①	鉛筆による基礎デッサンの技法	【知】鉛筆による基礎デッサンを習得する。 鉛筆の特性を知り、白色から黒色までのグラデーション使い分け、明暗の調子を整え、陰影をとらえて形態、空間、立体感を描ける。 【思】多様なモチーフの質感を感じ取り、立体的に把握したり、空間をも感じさせる、創意工夫した構成力のある様々な表現方法ができる。 【態】鉛筆の特性、使い方、デッサンについて理解する。見慣れたものの色や形の面白さや、特徴があることに興味を持ち、意識して観察したり表現しようとしている。
②	目の細密描写と 手のデッサン	【知】 人体のパーツを細かく観察し、鉛筆の濃淡を用いて細部の質感、形態や陰影を正しく捉えて描き、細密描写までに高めることができる。 【思】人体のパーツの構造と機能を理解し、漫画やイラスト的な表現で終わることなく、デッサンの領域にまで展開し、表現することができる。 【態】習得した鉛筆デッサン技法により、ものの見方を広げ、切り替えて、人体の構造を理解し、感じた魅力を独創的で豊かな表現までに置き換える努力を継続している。
③	石彫・蔵書印の持ち手を彫る	【知】平面でのアイデアスケッチを立体に置き換え、石の特性を生かし、棒やすりなどの用具を用いて削り出し、立体作品の制作ができる。 【思】自分の持つイメージを、立体表現として表すことができる。 【態】様々な作品を参考として、自分の作品に生かし、創意工夫をして形を探し、削り続けている。
④	空想画の表現についてと 鉛筆デッサン	【知】鉛筆デッサンの技法（白色と黒色の美しさ・グラデーション・明暗・陰影）を生かして、自由な発想で空想画を描くことができる。 【思】鉛筆の特性や技法を生かして、自分のイメージやセンスを、白黒の世界において、自由な表現の作品として表すことができる。 【態】多様な表現方法を創意工夫して自分のイメージに沿わせ、意欲的な作品制作に取り組んでいる。
⑤	蔵書印の篆刻	【知】自分の名前を、篆刻文字 を用いて装飾性も考えて独創的な印鑑のデザインを練り、平面を磨いた石の裏面に移し、細やかな印鑑を正確に彫ることができる。 【思】様々な作品を参考にしてデザインのセンスを磨き、繊細かつ大胆で個性豊かな蔵書院の表現を制作できる。 【態】デザインの幅が広がるようにアイデアを練り、創意工夫をして制作を継続している。
⑥	抽象表現についてと 鉛筆デッサン	【知】鉛筆デッサンの技法（白色と黒色の美しさ・グラデーション・明暗・陰影）を生かして、自由な発想で抽象画を描くことができる。 【思】自分の思考やセンスを、鉛筆を使う白黒の世界において、独創的な表現で強く表すことができる。 【態】多様な表現方法を参考にして、自分のイメージを探し求め、意欲的な作品制作に取り組んでいる。

中 単 元 名	小単元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】（知識・技能） 【思】（思考力・判断力・表現力） 【態】（主体的に学習に取り組む態度）
⑦	石彫を磨き 仕上げる	【知】 荒彫りした石彫の持ち手を、中目、細目棒やすりで形を整え、80番から3000番まで8種類の耐水ペーパーを用いて、美しい光沢が出るまで磨き、作品を仕上げるができる。 【思】 光沢感の生まれる石の特性を生かし、自分のイメージに沿い、形を磨き出すことで、より強い表現の作品にすることができる。 【態】 美術の画材、素材とは、作り手の意志や心が入り、美術作品としてすべてが表れてくることに気付き、真剣に作品と向き合い制作を継続している。

「2年 音楽」

使用教材 MY SONG 6訂版（教育芸術社）

評価の観点

評価の観点		
【知】知識・技能	【思】思考力・判断力・表現力	【態】主体的に学習に取り組む態度
・曲種に応じた発声・発音を用い、表現要素の表し方に気を付けて音楽表現をする技能を身に付けている。	・音楽表現（歌唱・創作・器楽）の美しさを感じ取り、表現要素の表し方に気を付けて、工夫して表現している。	・音楽活動を通して興味・関心を深め、幅広く主体的に鑑賞している。

年間の学習内容

2年 音楽	①	歌唱
	②	鑑賞
	③	器楽
	④	創作
	⑤	発表

学習計画及び評価方法等

中 単 元 名	小単元 （教材名）	評価基準・評価方法
		【知】（知識・技能） 【思】（思考力・判断力・表現力） 【態】（主体的に学習に取り組む態度）
①	「荒城の月」 「浜辺の歌」	【知】日本語の美しさを生かして歌唱表現する技能を身につけている。 【思】音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想の美しさを感じ取っている。 日本語の美しさを感じ取って歌唱表現を工夫している。 【態】歌曲の内容や曲想、曲種に応じた発声や美しい言葉の表現、声部の役割と全体の響きに関心をもち曲にふさわしい歌唱や合唱の表現をすることに意欲的である。
	「サンタルチア」	【知】曲にふさわしい歌唱表現をする技能を身につけている。 【思】楽曲の諸要素から表現の特徴を理解し、効果的な表現を工夫している。 【態】音楽を支える風土や文化、歴史、言語や発声の多様性に関心を持っている。
	「さようなら」	【知】曲のもっているよさや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をする技能を身につけている。 【思】曲の持っている良さや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現を工夫している。【態】曲の持っているよさや特質に関心をもち、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をすることに意欲的である。
	合唱祭課題曲	【知】速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現する。 【思】音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫している。 【態】合唱曲に関心を持ち、曲想を感じながら意欲的に取り組んでいる。
	合唱祭自由曲	【知】曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌っている。 【思】速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現を工夫している。 【態】速度や強弱の働きによる曲想の変化に関心を持ち意欲的に表現している。
②	小フーガ ト短調	【知】表現要素によって生み出される曲想の変化を理解して楽曲全体を聴き取っている。 【思】表現要素の働きによって生み出される曲想の変化を感じ取っている。 【態】表現要素によって生み出される曲想の変化に関心を持ち、意欲的に聴いている。
	交響曲第5番	【知】表現要素と曲想の変化との関連をより細部にわたり理解し楽曲全体を聴き取っている。 【思】表現要素の働きによって生み出される曲想の変化を感じ取っている。 【態】表現要素によって生み出される曲想の変化に関心を持ち、意欲的に聴いている。

中 単 元 名	小単元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】(知識・技能) 【思】(思考力・判断力・表現力) 【態】(主体的に学習に取り組む態度)
	「越天楽」「勸進帳」	【知】我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽性を感じ取って聴いている。 【思】我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽性を感じ取って聴いている。 【態】我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽性を感じながら意欲的に聴いている。
③	箏による楽曲 の演奏	【知】楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫して表現している。 【思】速度や強弱、奏法の働きによる曲想の変化を工夫している。 【態】楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法に関心を持ち意欲的に取り組んでいる。
	ボディ・パー カッション	【知】リズム表現を活かした演奏をするために必要な奏法、体の技能を身に付けている。 【思】リズム表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしいリズム表現を創意工夫している。 【態】リズム表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしいリズム表現を創意工夫することに意欲的である。
④	リズム創作	【知】自らリズムを創作し、表現するための技能を身に付けている。 【思】自らリズムを創作し、まとまりのある創作表現を創意工夫している。 【態】自らリズムを創作し、表現することに積極的に意欲的である。
⑤	夏休みの宿題 の発表と鑑賞	【知】自分の選んだ曲や表現方法について、間違えることなく発表している。 【思】自分に合う曲を選び、その良さを把握し、音楽の流れに乗って表現している。 【態】自分で曲や演奏手段を決め、練習し、人に向けて発表することに意欲的である。

「2年 美術」

使用教材 美術資料（秀学社）

評価の観点

評価の観点		
【知】知識・技能	【思】思考力・判断力・表現力	【態】主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について、理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し 構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の 幅広い学習活動に取り組もうとしている。

2 年間の学習内容

2 年 美術	①	色面構成・生物のスケッチと図案化
	②	手の鉛筆デッサン
	③	構成美の要素
	④	色彩の基本
	⑤	空想画の表現についてと鉛筆デッサン
	⑥	色面構成・彩色の基本・平塗り技法
	⑦	抽象画の表現についてと鉛筆デッサン

3 学習計画及び評価方法等

中 単 元 名	小単元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】（知識・技能） 【思】（思考力・判断力・表現力） 【態】（主体的に学習に取り組む態度）
①	色面構成・ 生物のスケッ チと図案化	【知】生物のスケッチを描き、特徴をとらえて形を単純化して、創意工夫した図案を描くことができる。 【思】モチーフに選んだ生物をよく観察し、特徴を捉えたデザインによる独創的で美しい表現ができる。 【態】身近な生物を観察することにより、隠された美に関心を持ち、自分なりの美を探そうとしている。
②	手の鉛筆デッ サン	【知】鉛筆の特性を知り、白色から黒色までのグラデーション使い分け、手の構造を理解し、皮膚の質感、関節、筋肉、動きに沿った形を把握し、陰影をとらえて、立体的な手を描ける。 【思】手の質感や動きを感じ取り、形を立体的に把握し、手の周囲の空気、空間をも感じさせる、創意工夫した表現方法ができる。 【態】鉛筆の特性、使い方、デッサンについて理解し。見慣れた手の構造や動き、色や形の面白さと質感、特徴があることに興味を持ち、意識して観察したり表現しようとしている。
③	構成美の要素	【知】モチーフの単純化をして、シンメトリー、強調、リズム、ムーヴメント、リピテーション、バランス、グラデーション などの構成パターンを用いて、自分なりの構成を美しく描ける。 【思】新しい形態や配列を発見し、独自の図案を用いて構成をデザイン化し、表すことができる。 【態】複数の図案を用いて、独自の視点で構成パターンを作品にしようと制作を継続している。
④	色彩の基本	【知】色彩に興味を持ち、それぞれの色彩の持つ特性の基本知識を生かし、配色や混色の工夫をすることができる。 【思】色彩の形態を変え、変化や統一感を意識して、作品に美しく表すことができる。 【態】色彩や形態を自分のイメージに沿い、自由に使えるように創意工夫し、複数のアイデアを考えて制作を継続している。
⑤	空想画の表現 についてと 鉛筆デッサン	【知】鉛筆デッサンの技法（白色と黒色の美しさ・グラデーション・明暗・陰影）を生かして、自由な発想で空想画を描くことができる。 【思】鉛筆の特性や技法を生かして、自分のイメージやセンスを、白黒の世界において、自由な表現の作品として表すことができる。 【態】多様な表現方法を創意工夫して自分のイメージに沿わせ、意欲的な作品制作に取り組んでいる。
⑥	色面構成・ 彩色の基本・ 平塗り技法	【知】絵具の特徴や性質を理解し、色面構成に適した絵具や画材の使い方を選び、平塗技法での絵具の濃さや、溶き方、輪郭の描き方、面の色むらのない塗り方を習得して、作品を描くことができる。 【思】自分のイメージに沿い、色彩と形態を生かした美しい表現を工夫することができる。 【態】作品に平塗技法を生かし、美しい色面構成を制作をする。 美術の画材、素材とは、作り手の意志や心が入り、美術作品としてすべてが表れてくることに気付き、真剣に作品と向き合い制作を継続している。
⑦	抽象表現 についてと 鉛筆デッサン	【知】鉛筆デッサンの技法（白色と黒色の美しさ・グラデーション・明暗・陰影）を生かして、自由な発想で抽象画を描くことができる。 【思】自分の思考やセンスを、鉛筆を使う白黒の世界において、独創的な表現で強く表すことができる。 【態】多様な表現方法を参考にして、自分のイメージを探し求め、意欲的な作品制作に取り組んでいる。

「3年 音楽」

1 評価の観点

評価の観点		
【知】知識・技能	【思】思考力・判断力・表現力	【態】主体的に学習に取り組む態度
・ 楽曲を構成する諸要素に自己のイメージや感情を反映させて音楽表現の諸要素に生かし、演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を味わいながら音楽表現したり鑑賞する技能を身に付けている。	・ 音楽表現（歌唱・創作・器楽）の美しさを感じ取り、楽曲を構成する諸要素に自己のイメージや感情を反映させて音楽表現の諸要素に生かし、演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を味わいながら音楽表現している。	・ 音楽活動を通して、興味・関心を持ち、工夫して表現したり幅広く主体的に鑑賞することに意欲的である。

2 年間の学習内容

3 年 音 楽	①	歌唱
	②	鑑賞
	③	器楽
	④	創作
	⑤	発表

学習計画及び評価方法等

中 単 元 名	小単元 （教材名）	評価基準・評価方法
		【知】（知識・技能） 【思】（思考力・判断力・表現力） 【態】（主体的に学習に取り組む態度）
①	「花」「椰子の 実」	【知】 日本語の美しさを生かして歌唱表現をする技能を身につけている。 【思】 音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想の美しさを感じ取っている。 日本語の美しさを感じ取って歌唱表現している。 【態】 歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や美しい言葉の表現、声部の役割と全体の響きに関心を持ち曲にふさわしい歌唱や合唱の表現をすることに意欲的である。
	「星の世界」	【知】 曲のもっている良さや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をする技能を身につけている。 【思】 曲のもっている良さや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現を工夫している。 【態】 曲のもっている良さや特質に関心を持ち自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をすることに意欲的である。
	合唱祭課題曲 「大地讃頌」	【知】 曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌う。 【思】 音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫する。 【態】 曲種に応じた発声により美しい言葉の表現を工夫したり、曲種に応じた歌い方に意欲的に取り組んでいる。
	合唱祭自由曲	【知】 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱する。 【思】 歌詞の内容や曲想を味わい曲種に応じた発声や言葉の特性、声部の役割と全体の響きを工夫している。 【態】 歌詞の意味、背景にある情景や心情、歌詞の構成イメージや感情を生かして歌唱表現をすることに意欲的である。
②	アランフェス 協奏曲	【知】・ 独奏楽器と管弦楽オーケストラの関係を理解し、独奏者の音色や技巧的な奏法、情緒的な表現の特徴を理解しながら鑑賞している。 【思】 独奏者の音色や技巧的な奏法、情緒的な表現を味わいながら鑑賞している。 【態】 独奏者の技巧的かつ情緒的な表現や、独奏楽器と管弦楽オーケストラの關係に着目して意欲的に鑑賞している。
	「ブルタヴァ ア」	【知】 音楽の特徴や特質を諸要素や曲想、表現の仕方などから感じ取り、音楽の生まれた時代や地域の文化・歴史と結び付け総合的に理解している。 【思】 音楽の特徴や特質を諸要素や曲想から感じ取り、それらを音楽の生まれた時代や地域の文化・歴史と結びつけながら味わっている。 【態】 音楽の特徴や特質を諸要素や曲想から感じ取り、それらを音楽の生まれた時代や地域の文化・歴史と結びつけることに関心をもっている。
	「羽衣」 奈良・京都の 音楽	【知】 音楽の特徴や特質を諸要素や曲想、表現の仕方などから感じ取り、音楽の生まれた時代や地域の文化・歴史と結び付け総合的に理解している。 【思】 音楽の特徴や特質を諸要素や曲想から感じ取り、それらを音楽の生まれた時代や地域の文化・歴史と結びつけながら味わっている。 【態】 音楽の特徴や特質を諸要素や曲想から感じ取り、それらを音楽の生まれた時代や地域の文化・歴史と結びつけることに関心をもっている。

中 単 元 名	小単元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】(知識・技能) 【思】(思考力・判断力・表現力) 【態】(主体的に学習に取り組む態度)
③	カ ン タ ー タ 「土の歌」	【知】歌詞の意味、背景にある情景や心情、楽曲の構成イメージや感情を理解しながら鑑賞している。 【思】歌詞の意味、背景にある情景や心情、楽曲の構成イメージや感情を想像し味わいながら鑑賞している。 【態】歌詞の意味、背景にある情景や心情、楽曲の構成イメージや感情に興味を持ちながら意欲的に鑑賞している。
	ボディ・パー カッション	【知】・手足を操り、複数のリズムを統合して表現できる。 【思】・手足を操り、複数のリズムを創意工夫して統合している。 【態】・手足を操り、複数のリズムを統合して表現することに意欲的である。
④	小曲の作曲	【知】音階や形式・構成を生かした創作表現ができている。 【思】作品の形式・構成によるまとまりを工夫している。 【態】音階にふさわしい旋律を作ることに関心をもち意欲的に取り組んでいる。
⑤	夏休みの宿題 の発表と鑑賞	【知】自分の選んだ曲や表現方法について、間違えることなく発表している。 【思】自分に合う曲を選び、その良さを把握し、音楽の流れに乗って表現している。 【態】自分で曲や演奏手段を決め、練習し、人に向けて発表することに意欲的である。

「3年 美術」

使用教材 美術資料（秀学社）

評価の観点

評価の観点		
【知】知識・技能	【思】思考力・判断力・表現力	【態】主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について、理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し 構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の 幅広い学習活動に取り組もうとしている。

年間の学習内容

3 年 美術	①	木彫時計のデザイン
	②	木彫デザインの構図
	③	手の鉛筆デッサン
	④	木彫の基本技法
	⑤	仏像彫刻の表現について
	⑥	浮き彫り・かまぼこ彫り技法
	⑦	空想画の表現についてと鉛筆デッサン
	⑧	着色・素地仕上げ
	⑨	抽象画についてと鉛筆デッサン

学習計画及び評価方法等

中 単 元 名	小単元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】（知識・技能） 【思】（思考力・判断力・表現力） 【態】（主体的に学習に取り組む態度）
①	木彫時計の デザイン	【知】 時計としての様々な作品を参考にして、木の素材や木目、彫りを生かせるデザインであることを理解して、アイデアスケッチを描くことができる。 【思】 時計板のデザインとして、自分のイメージに沿い、半立体的に美しく見える表現のデザインを、表すことができる。 【態】 多様な分野の美術作品に作品に興味を持ち、意欲的に資料を探し、参考にしてデザインを考察している。
②	木彫デザイン の構図	【知】 下絵の大きさや、画面上での構図の入り方 しだいで、作品が多様な表現の違いを表わすことを理解して、構図を描くことができる。 【思】 自分の彫りたいデザインを、より大胆で美しく、豊かにする構図を探し、用いて表現しようとしている。 【態】 自分のイメージをより豊かな表現にするために、複数の構図を探し、試して、制作を継続している。
③	手の 鉛筆デッサン	【知】 鉛筆の特性を知り、白色から黒色までのグラデーション使い分け、手の構造を理解し、皮膚の質感、関節、筋肉、動きに沿った形を把握し、陰影をとらえて、立体的な手を描ける。 【思】 手の質感や動きを感じ取り、形を立体的に把握し、手の周囲の空気、空間をも感じさせる、創意工夫した表現方法ができる。 【態】 鉛筆の特性、使い方、デッサンについて理解し。見慣れた手の構造や動き、色や形の面白さと質感、特徴があることに興味を持ち、意識して観察したり表現しようとしている。
④	木彫の 基本技法	【知】 彫刻刀の種類や各種の彫り方技法の特徴を理解し、けがをしない両手で木を彫る彫り方 ができる。 【思】 自分のイメージに沿い、近くは浅く、遠くは深く彫り進めて、より立体感を表す表現ができる。 【態】 木彫の基本技法を学び、丁寧で繊細かつ大胆な彫りを目指して、制作の継続をしている。
⑤	仏像彫刻の 表現について	【知】 仏像彫刻の基礎的な知識を深め、素材、分類、形態、装飾性の意味合い などを理解して、仏像彫刻の鑑賞能力を高めることができる。 【思】 仏像彫刻の基礎知識をもとに、僧侶や仏師達が何を伝えようとしたかまでも、仏像表現の中から感じ取り、理解を深めることができる。 【態】 多様な仏像彫刻の表現に興味を持ち、理解を深める工夫を継続している。
⑥	浮き彫り・ かまぼこ彫り 技法	【知】 浮き彫り、かまぼこ 彫り技法を用いて自分の作品に生かし、立体感を表す彫り方ができる。 【思】 作品の中で、より美しい立体感を表すための表現方法を探し、彫り進めることができる。 【態】 木彫作品の特性を生かし、丁寧で繊細かつ大胆な彫りを目指して、制作の継続をしている。
⑦	空想画の表現 についてと 鉛筆デッサン	【知】 鉛筆デッサンの技法（白色と黒色の美しさ・グラデーション・明暗・陰影） を生かして、自由な発想で空想画を描くことができる。 【思】 鉛筆の特性や技法を生かして、自分のイメージやセンスを、白黒の世界において、自由な表現の作品として表すことができる。 【態】 多様な表現方法を創意工夫して自分のイメージに沿わせ、意欲的な作品制作に取り組んでいる。

中 単 元 名	小単元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】(知識・技能) 【思】(思考力・判断力・表現力) 【態】(主体的に学習に取り組む態度)
⑧	着色・ 素地仕上げ	【知】 8 0 番から 400 番までのサンドペーパーを駆使して、立体感のある形が現れるまで磨き、木目を生かした素地仕上げ技法で着色ができる。 【思】 彫り方技法だけではなく、着色技法の選択により、作品の仕上がりに大きな違いが現れることを理解し、表現方法を工夫することができる。 【態】 美術の画材、素材とは、作り手の意志や心が入り、美術作品として全てが表れてくることに気付き、真剣に作品と向き合い制作を継続している。
⑨	抽象表現につ いてと 鉛筆デッサン	【知】 鉛筆デッサンの技法（白色と黒色の美しさ・グラデーション・明暗・陰影） を生かして、自由な発想で抽象画を描くことができる。 【思】 自分の思考やセンスを、鉛筆を使う白黒の世界において、独創的な表現で強く表すことができる。 【態】 多様な表現方法を参考にして、自分のイメージを探し求め、意欲的な作品制作に取り組んでいる。

「4年 音楽」

使用教材 MOUSA 1（教育芸術社）

評価の観点

評価の観点		
【知】知識・技能	【思】思考力・判断力・表現力	【態】主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。	・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとしている。

年間の学習内容

4年 音楽	①	歌唱
	②	器楽
	③	鑑賞
	④	創作
	⑤	発表

3 学習計画及び評価方法等

中 単 元 名	小単元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】(知識・技能) 【思】(思考力・判断力・表現力) 【態】(主体的に学習に取り組む態度)
①	混声四部合唱	【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【思】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受している。 【態】歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりすることに意欲的である。
	ア・カペラ合唱	【知】言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 他者との調和を意識して歌う技能を身に付けている。 【思】音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きとどう関わらせるか考えている。 【態】自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫することに意欲的である。
	合唱祭への取り組み	【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴を理解している。 表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付けている。 【思】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。 【態】歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫することに意欲的である。
②	リズム・アンサンブル	【知】様々な表現形態による器楽表現の特徴を理解している。 表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付けている。 【思】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。 【態】器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫することに意欲的である。
	キーボードのコードの基礎 コード伴奏 弾き歌い	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解している。 他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。 【思】音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きとどう関わらせるか考えている。 【態】自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫することに意欲的である。
	ギターの基礎 ギターの演奏	【知】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【思】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受している。 【態】器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりすることに意欲的である。

中 単 元 名	小単元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】(知識・技能) 【思】(思考力・判断力・表現力) 【態】(主体的に学習に取り組む態度)
③	オルフ「カル ミナ・ブラー ナ」	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造上の関わりについて理解しながら鑑賞している。 【思】鑑賞に関する知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって鑑賞している。 【態】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受することに意欲的である。
	交響曲第9番 「合唱付き」	【知】音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解しながら鑑賞している。 【思】鑑賞に関する知識を得たり生かしたりしながら、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって鑑賞している。 【態】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることに意欲的である。
	郷土の伝統音 楽	【知】我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解しながら鑑賞している。 【思】鑑賞に関する知識を得たり生かしたりしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって鑑賞している。 【態】我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって鑑賞することに意欲的である。
④	音階とメロデ ィーの創作	【知】創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復・変化・対照などの手法を活用する技能、旋律を作ったり作った旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽を作る技能、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能を身に付けている。 【思】音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、理解しながらイメージを表している。 【態】創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫することに意欲的である。
⑤	夏休みの宿題 の発表と鑑賞	【知】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。 【思】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受している。 【態】音楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することに意欲的である。
	自由発表	【知】他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。 【思】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。 【態】音楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することに意欲的である。

「4年 美術」

使用教材 高校生の美術 1（日本文教出版）

評価の観点

評価の観点		
【知】知識・技能	【思】思考力・判断力・表現力	【態】主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について、理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し 構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の 幅広い学習活動に取り組もうとしている。

2 年間の学習内容

4年 美術	①	鉛筆による「目・鼻・口」の細密描写
	②	校内文化祭ポスターの制作
	③	画材 自由選択課題 1、石彫
	④	2、木彫
	⑤	3、彫塑
	⑥	4、油画
	⑦	5、アクリル画
	⑧	6、ペン画
	⑨	7、工芸

3 学習計画及び評価方法等

中 単 元 名	小单元 (教材名)	評価基準・評価方法
		【知】（知識・技能） 【思】（思考力・判断力・表現力） 【態】（主体的に学習に取り組む態度）
①	鉛筆による 「目・鼻・口」の 細密描写	【知】 人体のパーツを細かく観察し、鉛筆の特性を理解し、濃淡を用いての細部の質感、形態や陰影を正しく捉えて描き、細密描写までに高めることができる。 【思】人体のパーツの構造と機能を理解し、質感も感じ取り、立体的に把握したり、空間をも感じさせる、創意工夫した構成力のある表現方法を表わすことができる。 【態】習得した鉛筆デッサン技法により、ものの見方を広げ、切り替えて、人体の構造を理解し、感じた魅力を独創的で豊かな表現までに置き換える努力を継続している。
②	文化祭 ポスター	【知】 校内文化祭のテーマに沿い、伝達をしながらも美しくイメージを保ち、様々な描画技法を用いて、ポスター作品を制作できる。 【思】ポスターの制作をとおして、デザインの持つ視覚的効果、社会的な役割までも考え、作品を表現している。 【態】テーマに沿う表現、アイデアスケッチ、デザイン性などを創意工夫し、制作を継続している。
③	画材 自由選択課題	・石彫・彫塑・木彫・工芸・油彩画・アクリル画・ペン画・鉛筆デッサンの画材から、自由に選択をして制作をする。 【知】自分のイメージに沿い、素材の特性を生かした表現を選び、前期生の時期に習得した技法を応用して、作品を制作することができる。 【思】素材の特性を捉えて、様々な資料をもとに、観察力や創造性を磨いて、感性を作品に表す。 【態】自分のイメージに適した画材や用具、技法を用いて創意工夫し、見通しを持って作品の制作を継続している。 美術の画材、素材とは、作り手の意志や心が入り、美術作品としてすべてが表れてくることに気付き、真剣に作品と向き合い制作をしている。

「4年 書道」

使用教材 書Ⅰ 書Ⅰプライマリーブック (教育図書)

評価の観点

評価の観点		
【知】知識・技能	【思】思考力・判断力・表現力	【態】主体的に学習に取り組む態度
書の表現を幅広く理解し、伝統に基づいた技法を身に付けながら書写能力を向上させている。	鑑賞から、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のよさや美しさを捉えようとしている。 意図に基づいて構想し、表現技法を工夫し、伝統と文化の価値、書の美や味わいを捉えながら作品を制作できる。	主体的に書の表現や鑑賞などの幅広い活動に取り組み、書の伝統と文化に対する見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

年間の学習内容

4年 書道	①	書へのいざない
	②	漢字の書
	③	仮名の書
	④	漢字仮名交じりの書

3 学習計画及び評価方法等

中 単 元 名	小単元	評価基準・評価方法
	(教材名)	【知】(知識・技能) 【思】(思考力・判断力・表現力) 【態】(主体的に学習に取り組む態度)
①	書道の基本	【知】書写で学習した書の姿勢、執筆、用具等の基本を復習し、基本の再確認ができています。 【態】書道の基本を確認し、現状と比較修正し、知識の幅を広げようとしている。
	書写から書道へ	【知】書写で学習した書の基本を基礎として、芸術書道で必要な学習方法や目指すことを理解している。 【態】これから学習する芸術書道について、知識を広げ、関心を持とうとしている。
	古典に基づく学習	【知】書道の学習の基礎となる古典や臨書について理解している。 【態】書の古典や臨書学習による書の学習方法を理解しようとしている。
②	楷書	【知】楷書の古典の種類と書風や技法について理解している。 【思】比較鑑賞により楷書の書風の違い等を理解し、臨書によりそれぞれの表現技法の違いを理解して作品にできる。 【態】楷書古典作品の良さや美しさを臨書によって理解しようとしている。
	行書	【知】行書の古典の種類と書風や技法について理解している。 【思】比較鑑賞により行書の書風の違い等を理解し、臨書によりそれぞれの表現技法の違いを理解して作品にできる。 【態】行書古典作品の良さや美しさを臨書によって理解しようとしている。
	草書・隸書・篆書	【知】草書・隸書・篆書の書体の種類や変遷について理解している。 【思】書体の違いを理解し、それぞれの書体についての用筆や技法を理解して作品にできる。 【態】漢字の書の書体について理解しようとしている。
③	仮名の書の基本	【知】仮名の書の基本について理解している。 【思】仮名の書の基本的な用筆、平仮名や連綿を理解して書くことができる。 【態】仮名の書の用筆、平仮名や連綿を理解しようとしている。
	仮名の古筆	【知】古筆による書風の違いや書式について理解している。 【思】比較鑑賞により古筆の書風の違い等を理解し、臨書によりそれぞれの違いや書式を理解して作品にできる。 【態】仮名古筆の良さや美しさを臨書によって理解しようとしている。

中 単 元 名	小単元	評価基準・評価方法
	(教材名)	【知】(知識・技能) 【思】(思考力・判断力・表現力) 【態】(主体的に学習に取り組む態度)
④	漢字仮名交じりの書	【知】 漢字仮名交じりの書の表現について理解している。 【思】 漢字仮名交じりの書を理解し、漢字の書や仮名の書で学習した中から表現技法を工夫して作品を制作できる。 【態】 書の表現を工夫した作品を制作しようとしている。
	実用の書	【知】 実用の書の書式や書き方について理解している。 【思】 実用の書の書式や書き方を理解して書くことができる。 【態】 実用の書理解しようとしている。